

令和 6 年度 白沢小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

広い視野を持ち，心身共に健康で，創造性と実践力に富む，心豊かな児童の育成

（2）具体目標

「時代を拓く日本人を育てる」

- ・よく学び考える子
- ・思いやりのある子
- ・たくましい子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

創立 150 年の歴史や伝統，豊かな自然や文化に培われてきた本校で学ぶすべての児童に対し，全教職員がその力を結集し，教育目標の達成を目指す。そのために，すべての教職員の和と信頼を以て，児童・保護者・地域住民等と協和し，地域の教育資源を活用しながら，創意と工夫・活力に満ちた教育活動を展開する。

目指す学校像： 学び合い 喜び合い はげまし合う 白沢小

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）楽しく居がいのある学校づくり
- （2）生きる力を育む教育実践
- （3）社会性の育成
- （4）郷土への愛情を育む教育実践（地域とともにある学校づくり）
- （5）自己研鑽と経営組織の活性化
- （6）働き方を意識した校内業務の適正化

〔古里地域学校園教育ビジョン〕

夢や目標をもち，その実現に向けて，自ら鍛え，思いやる心を磨きながら，生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 教育課程編成の方針

- （1）日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び学校教育法施行規則並びに小学校学習指導要領，栃木県教育委員会施策，宇都宮市教育委員会の基本方針や努力点の示すところに従い，本校教育課程を編成する。
- （2）令和 5 年度の本校の教育目標の実現を目指して，各教科で育む資質・能力や目標・内容を明確化するとともに，地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分に考慮し，特色ある教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営

「児童も教職員もいきいきと活動する学校づくり」

- 特別活動を軸に全教育活動を通して「児童が主体的に取り組むことのできる活動」を意図的に設定し，児童の主体性及び自己肯定感を育てる。
- ・地域の教育資源（人材・施設・組織）を活用した学習活動を充実させ，郷土への愛情や誇りを持たせる。
- ・教職員一人一人が主体となって，創意工夫された各種教育活動を展開するとともに，効果を維持した上で校務の効率化を推進する。

（2）学習指導

- ・一人一人が主体的に取り組む，いきいきと学び合う児童の育成
～ 基礎・基本の定着を図り，表現力を高める言語活動の工夫 ～

（3）児童生徒指導

- ・ 一人一人が自信をもち、共に支え合いながら、生き生きと活動する児童の育成
- (4) 健康 (体力・保健・食育・安全)
- ・ 生涯を通して運動に親しもうとする態度を育成し、体力や健康に関する知識や技能を身に付け、自他の生命を尊重しながら、安全な生活を営む児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策		評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価 ※は、令和4年度から変更あり。														
1ー（1） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 基礎基本の定着を図れるように、家庭学習や朝の学習など習熟を図る時間を設けるとともに、授業の中に、学びあいの活動を取り入れ、課題を児童同士で解決するような授業展開を心がけていく ② 1人1台端末を活用し情報を集めたり、友達の発表内容を言い換えたり、授業のまとめを児童自身の言葉で書いたりする機会を設ける。 ③ 「話し方の例」や「声のものさし」を掲示し、基本的な学習態度・技能の育成に努める。 ④ 「白沢小学習の約束」や古里学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭と連携して学習習慣の形成に努める。	B	【達成状況】A1（○） <table><tr><td>A 1</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>88.6%</td><td>91.8%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7%</td><td>95.7%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.1%</td><td>90.3%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> ・ 児童の肯定的回答が91.8%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・ ①～④を継続していく。 ・ 子供の考えを生かしてまとめたり、子供の交流を通じて思考を広げたりする授業を展開する。 ・ 振り返りの視点を提示し、授業内での振り返りの時間を確保する。 ・ ペア学習やグループ学習を行う目的を明確にして話し合いを充実させる。	A 1	R 5	R 6	児童	88.6%	91.8%	教職員	95.7%	95.7%	保護者	88.1%	90.3%	地域住民		
A 1	R 5	R 6																	
児童	88.6%	91.8%																	
教職員	95.7%	95.7%																	
保護者	88.1%	90.3%																	
地域住民																			
1ー（2） 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 道徳において、相手の気持ちを考えたり、その時の自分の行動を考えたりする授業を実践していく。 ② 他の児童が行った、思いやりの行動を「ありがとうのふわふわ雲」に掲示することで、児童同士が互いのよさを認め合えるようにする。 ③ 縦割り班活動や学校行事等において、異学年の交流活動等を計画的に設定し、児童の思いやりの心を育てる。 ・ 「なかよしタイム」や昼休みの活動 1年生となかよく遊ぼう集会、（古里地域学校園、児童会による）あいさつ運動、運動会スローガン、歳末助け合い、感謝の会、6年生を送る会	B	【達成状況】A2（○） <table><tr><td>A 2</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.6%</td><td>92.7%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>95.7%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.5%</td><td>92.4%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>94.7%</td></tr></table> ・ 児童の肯定的回答が92.7%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・ ①～③を継続していく。 ・ 思いやる心を育成するため、互いのよさを伝え合う活動を積極的に取り入れる。 ・ 引き続き、異学年交流を通して思いやりの心を育てていく。	A 2	R 5	R 6	児童	92.6%	92.7%	教職員	100.0%	95.7%	保護者	94.5%	92.4%	地域住民	100.0%	94.7%
A 2	R 5	R 6																	
児童	92.6%	92.7%																	
教職員	100.0%	95.7%																	
保護者	94.5%	92.4%																	
地域住民	100.0%	94.7%																	

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 繰り返し学習したり、少し難しい学習に挑戦したりする場を意図的に設けることや、スモールステップで無理のない目標を設定するなど、児童の意欲の向上や達成感に繋げられるようにする。 ② グループやクラス・学年で目標をもち、自分たちの力で最後まで取り組める機会を意図的につくるとともに、その取組の様子をホームページや学年だより等で保護者に伝える。 ③ 学級活動や帰りの会などを通して、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、児童の意欲を喚起するよう、担任も認め励ます指導に努める。 ④ キャリアパスポートや各種振り返りカードを活用して、活動の振り返りを行い、互いに認め合う場を設定することで、多くの児童が達成感を味わえるようにする。	【達成状況】A3 (○) <table><tr><td>A 3</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>87.3%</td><td>93.1%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>82.6%</td><td>87.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.9%</td><td>78.6%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答が93.1%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・①～④を継続していく。 ・長なわ大会のように、クラスで目標を決めて取り組む機会や場を意図的に取り入れる。 ・自分で設定した目標をこまめに振り返る機会を設ける。	A 3	R 5	R 6	児童	87.3%	93.1%	教職員	82.6%	87.0%	保護者	84.9%	78.6%	地域住民		
A 3	R 5	R 6																
児童	87.3%	93.1%																
教職員	82.6%	87.0%																
保護者	84.9%	78.6%																
地域住民																		
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施して、体験活動を通した安全教育を推進するとともに、校内での過ごし方や登下校時の安全についての指導を適宜行うことで、安全への意識を高められるようにしていく。 ② 健康について児童が実感を伴って理解できるように元気子体力チェックや生活アンケートを活用し、保健学習や学級活動における項目内容を充実させる。 ③ 地域や保護者と連携して感染症対策の徹底を図るとともに、<u>その他の安全教育も委員会活動とタイアップしながら、児童主体の活動として継続する。保健委員会では安全面、体育委員会では怪我の予防等、児童が健康・安全を意識できるような取組を充実させる。</u>	【達成状況】A4 (○) <table><tr><td>A 4</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>95.6%</td><td>93.1%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7%</td><td>91.3%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.3%</td><td>90.8%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が93.1%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・①～③を継続していく。 ・学校での安全に関するルールについて徹底が図れるように継続して指導していく。	A 4	R 5	R 6	児童	95.6%	93.1%	教職員	95.7%	91.3%	保護者	92.3%	90.8%	地域住民	100.0%	100.0%
A 4	R 5	R 6																
児童	95.6%	93.1%																
教職員	95.7%	91.3%																
保護者	92.3%	90.8%																
地域住民	100.0%	100.0%																
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学級活動や児童会活動、縦割り班活動（児童会・清掃・給食・新体力テスト）等において、自分で考え、周りと協力し合える活動を意図的・計画的に取り入れる。 ② 児童が目標をもって取り組むことができるよう、係活動や学級活動、委員会活動の充実を図り、定期的振り返る機会を設けることで、自己の成長に気付くことができるようにする。	【達成状況】A5 (○) <table><tr><td>A 5</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.0%</td><td>92.7%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答が92.7%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・①～④を継続していく。 ・引き続き、係活動や学級活動、委員会活動や縦割り班活動等において、一人一人に役割をもたせるとともに、振り返る場を確保し、自己の成長に気付くことができるようにする。	A 5	R 5	R 6	児童	90.0%	92.7%	教職員	95.7%	100.0%	保護者			地域住民		
A 5	R 5	R 6																
児童	90.0%	92.7%																
教職員	95.7%	100.0%																
保護者																		
地域住民																		

2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、外 国語活動（英語）の授業やA LTとの交流の際に、英語を 使ってコミュニケーションし ている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以 上	① 授業において、担当する教員が自 ら積極的に英語を使う授業を展開 するとともに、A L Tを積極的に活 用し、英語によるやり取りを児童一 人一人が行う活動を設定する。 ② 給食時間にA L Tが校内放送で 行う児童との日常会話の紹介や、休 み時間の交流を通して、児童が英語 に触れる機会を設ける。 ③ 外国語担当教員を中心に、子ども たちの多様な活動の中で外国語が 目に触れるよう、校内掲示を充実さ せる。	A	【達成状況】A6 (○) <table><tr><td>A 6</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>84.7%</td><td>85.3%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>91.3%</td><td>91.3%</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> - 児童の肯定的回答が 85.3%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ①～③を継続していく。 - 積極的なコミュニケーションを称賛していく。 - 給食時間にALTが教室に行き、コミュニケーションをとりながら食事をすることを次年度も継続する。 - 指導法の工夫や改善などを行い、授業内の中で児童一人一人が英語でコミュニケーションをとる機会を増やす。 - 縦割り班活動において、英語を使ったゲームやダンスを行うなど、英語を使いながら遊ぶ機会を設ける。	A 6	R 5	R 6	児童	84.7%	85.3%	教職員	91.3%	91.3%	保護者			地域住民		
	A 6	R 5		R 6															
児童	84.7%	85.3%																	
教職員	91.3%	91.3%																	
保護者																			
地域住民																			
A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 宇都宮学に関するテキストを積極的に活用するとともに、市内や地域での校外学習等の機会を生かして、宇都宮の良さを感じられるように指導する。 ② お昼の放送を活用し、身近な自然や文化について学ぶ機会をつくる。 ③ 学年だよりやホームページ等で、保護者や地域に、学校での取組について積極的に情報を発信することで、宇都宮市の良さを認識できるようにしていく。	B	【達成状況】A7 (○) <table><tr><td>A 7</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>85.2%</td><td>90.1%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7%</td><td>82.6%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>67.5%</td><td>73.9%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> - 児童の肯定的回答が 90.1%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ①～③を継続していく。 - 道徳・学活・総合的な学習の時間・生活科・委員会活動・児童会などと連携して取り組む。 - 地域への校外学習や各教科での学習を通して、児童の宇都宮への関心を高める。	A 7	R 5	R 6	児童	85.2%	90.1%	教職員	95.7%	82.6%	保護者	67.5%	73.9%	地域住民			
A 7	R 5		R 6																
児童	85.2%	90.1%																	
教職員	95.7%	82.6%																	
保護者	67.5%	73.9%																	
地域住民																			
2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、パ ソコンや図書等を学習に活用 している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以 上	① 一人一台端末を多様な場面で積極的に活用した授業を日常的に展開し、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組む。 ② 一人一人の習熟の程度に応じた学習に取り組む等、個に応じたI C T機器の活用について、学校便りやホームページ等で保護者や地域の方々に周知する。 ③ 引き続き、市図書館等の貸出を利用し、必要な図書資料を豊富に準備し、調べ学習等に活用する。 ④ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	B	【達成状況】A8 (○) <table><tr><td>A 8</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>86.5%</td><td>90.1%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7%</td><td>95.7%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.5%</td><td>81.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> - 児童の肯定的回答が 90.1%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ①～④を継続していく。 - 家庭での端末の使い方について、学年だより等で啓発を図る。 - 引き続き、学校での読書への取り組みを継続し、家庭で読書に親しむよう啓発する。(親子読書、家読等) - 家庭での学習でも積極的に活用が図れるよう、授業と連携した宿題等を出すようにする。	A 8	R 5	R 6	児童	86.5%	90.1%	教職員	95.7%	95.7%	保護者	88.5%	81.5%	地域住民		
A 8	R 5	R 6																	
児童	86.5%	90.1%																	
教職員	95.7%	95.7%																	
保護者	88.5%	81.5%																	
地域住民																			

2ー(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、水や電気を大切にしたり、植物や動物を大切にしたりしている。」「私は、「持続可能な社会」について、関心を持っている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 生活科・総合的な学習・理科・社会等において、地域の自然・文化・環境等を課題とした学習を充実させるとともに、各教科で学習した取組について実践できる機会を意図的・計画的につくる。 ② 企業の出前講座や環境委員会の活動等、さまざま機会をとらえ、SDGs の取組と関連付け、環境問題や防災等について考える機会を増やしていく。	B	【達成状況】A9 (○) <table><tr><th>A 9</th><th>R 5</th><th>R 6</th></tr><tr><td>児童</td><td>91.3%</td><td>91.8%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>82.6%</td><td>73.9%</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答が91.8%で指標を達成している。 ・環境問題について、授業で取り上げたり、委員会活動において、牛乳パックのリサイクルを実体験させたりすることで関心を高めることができた。 【次年度の方針】 ・①②を継続していく。 ・道徳・学活・総合的な学習の時間・生活科・委員会活動・児童会などと連携して取り組む。 ・今後も、児童の発達段階に応じた授業づくりを行い、持続可能な社会づくりの実現に向けて、児童の見方・考え方を育てていく。	A 9	R 5	R 6	児童	91.3%	91.8%	教職員	82.6%	73.9%	保護者			地域住民		
	A 9	R 5		R 6															
児童	91.3%	91.8%																	
教職員	82.6%	73.9%																	
保護者																			
地域住民																			
3ー(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 校内支援委員会等により組織的な対応に努め、一人一人のニーズを踏まえ、児童に必要な支援について定期的に検討する。 ② 特別な支援が必要な児童生徒に対して、個別の支援計画を作成・活用して、学校全体として指導に当たる。 ③ 毎月、特別な支援が必要な児童の情報交換を定期的に行い、共通理解を図り学校全体で対応をしていく。 ④ SCや外部機関と連携し合って、個に応じたよりよい支援の在り方について考え指導に生かしていく。	B	【達成状況】A10 (○) <table><tr><th>A 10</th><th>R 5</th><th>R 6</th></tr><tr><td>児童</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>95.7%</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答が95.7%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・①～④を継続していく。 ・校内支援委員会の計画的な実施、かがやきルーム支援員との日常的な情報交換、SCや外部機関との連携等を行い、特別な支援を必要とする児童への支援を継続していく。	A 10	R 5	R 6	児童			教職員	100.0%	95.7%	保護者			地域住民		
A 10	R 5	R 6																	
児童																			
教職員	100.0%	95.7%																	
保護者																			
地域住民																			

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。

【数値指標】

全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」

⇒児童の肯定的回答 90%以上

全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」

⇒保護者の肯定的回答 80%以上

① いじめゼロ集会やいじめアンケート、標語の募集などにより、児童の意識化を図り、全教職員が「いじめはどの児童にも、あらゆる場面で起こりうる」、「いじめは許されない行為である」という共通認識のもと、日常的に指導していく。

② なかよしタイムや昼休み等、教員による巡視を実施し、いじめにつながるトラブル等の未然防止に努めるとともに、日常会話や教育相談週間等を通して、日頃から児童との信頼関係を築いていく。

③ 友達同士がお互いのよさに気付けるよう、グループでの活動を多く取り入れ、教師が認め励ます言葉かけを心がけていく。

④ いじめ防止に関する資料や学校での取組を、懇談会や学校便り、HPなどで地域や保護者に積極的に発信する。

【達成状況】A11 (×)

A 1 1	R 5	R 6
児童	96.9%	97.8%
教職員	100.0%	100.0%
保護者	83.7%	76.0%
地域住民	100.0%	94.4%

・児童の肯定的回答が 97.8%、保護者の肯定的回答が 76.0%で、児童は指標を達成しているが、保護者は達成していない。

【次年度の方針】

- ・①～④を継続していく。
- ・次年度も教育相談や人権週間、いじめゼロ集会やいじめアンケート、標語の募集など、児童自身がいじめについて考える活動を実施していく。
- ・「いじめゼロ集会」、「人権集会」等を保護者に公開するとともに、学校でのいじめ防止に関する取り組みを学校便り、学年便り等でコーナーを設けて紹介するなど、学校での取組を積極的に発信していく。
- ・いじめに関する道徳の授業等で家族と話し合ってくるよう働きかける。
- ・教師間の情報交換を密に行う。

A

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。

【数値指標】

全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」

⇒児童の肯定的回答 90%以上

① 児童のよさを称賛したり、一人一人が活躍できる場を設定したりし、児童が自己有用感をもち、安心して生活できるようにする。

② 担任だけでなく、学校組織として児童の状態を把握し、教育相談やQ-U等の結果を活用しながら支援策を検討し、児童への適切な支援に繋げる。

③ 「できた」「分かった」が繰り返されるなど、授業が児童にとって楽しい時間となるよう努める。

④ 職員会議後等に不登校対策やいじめ対策を兼ねて、児童指導について情報交換会を実施したり、不登校対策委員会を開いたりするなど、学校全体で対応していく。

【達成状況】A12 (○)

A 1 2	R 5	R 6
児童	96.1%	97.8%
教職員	100.0%	95.7%
保護者	86.8%	78.6%
地域住民		

・児童の肯定的回答が 97.8%で指標を達成している。

【次年度の方針】

- ・①～④を継続していく。
- ・欠席状況を常に把握して、問題の未然防止や早期対応に努める。
- ・係活動などを通して、児童同士が認め合う場を設定する。

B

3- (3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A 13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいきいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、 困ったときに相談に乗って くれたり、問題を解決しよう としたりして、私たちが楽し く学校生活を送れるように している」 ⇒児童の肯定的回答 90% 以上	① 各行事や児童会活動、 クラスで協力する活動（長 縄・ドッジボール大会・ロ ング昼休みを活用したクラ ス遊び等）を通して、主 体的に活動できるように する。 ② 児童の心の安定や居が いいのある学校づくりの ため、日常の会話等を通 して、児童と教師の関わり をさらに深め、児童に寄 り添い、児童を肯定的に 捉えていく。 ③ あいさつ運動を通して、 児童が主体的に他者との 関わる機会を設定するこ とで明るい雰囲気をつ くる。	【達成状況】A13 (○) <table><tr><td>A 1 3</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>95.2%</td><td>97.0%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.5%</td><td>75.9%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr></table> - 児童の肯定的回答が97.0%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ②を重点的に取り組んでいく。 - 児童と触れ合ったり関わったりする時間を増やし、児童が安心してのびのびと生活できるようにしていく。 「先生とお話しよう週間」をはじめ、日常的に児童の話聞く機会を設け、不安や悩みを捉え、児童への理解を深める。 - 担任以外も含め、すべての教職員が相談に乗れる仕組みを構築する。	A 1 3	R 5	R 6	児童	95.2%	97.0%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	84.5%	75.9%	地域住民	100.0%	100.0%
A 1 3	R 5	R 6																
児童	95.2%	97.0%																
教職員	100.0%	100.0%																
保護者	84.5%	75.9%																
地域住民	100.0%	100.0%																
3- (4) 多様な教育 的ニーズへの 対応の強化			B															
4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A 14 教職員は、分かる授 業や児童にきめ細かな指 導を行い、学力向上を図 っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の 授業は分かりやすく、一人 一人に丁寧に教えてくれ る」 ⇒児童の肯定的回答 90% 以上	① 基礎力を養う朝の学 習を計画的に実施する とともに、読解力や語彙 力、文章力等の向上を 図る言語活動の取組を 教職員共通理解のもと 実践し、学力向上につ なげていく。 ② 「はっきり、じっくり、 すっきり」の「宇都宮モ デル」を活用した授業 づくりや、タブレット端 末等のICT機器が効果 的に活用された学習活 動を行い、「主体的・対話 的で深い学び」の実現 に向けた授業改善に努 めていく。 ③ 少人数習熟度別指導 を生かした指導方法の 工夫（個別支援や学び 合い活動等実態に応じ た指導）を取り入れる ことにより、学力の向 上を図る。 ④ ノートやワークテス ト、プリントなどに励 ましやアドバイス・コ メントなどを入れる等 、児童一人一人の学 習への意欲を高めると ともに、ホームページ や学年だよりで、学 習の様子を配信する。	【達成状況】A14 (○) <table><tr><td>A 1 4</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>97.4%</td><td>97.8%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>95.7%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>78.3%</td><td>81.0%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> - 児童の肯定的回答が97.8%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ①～④を継続していく。 - 分かる授業の実現のため、引き続き、児童の実態把握を十分に行い、児童一人一人に応じた、分かりやすい丁寧な指導を実践していくことで、学力向上を図る。 - タブレット端末やICT機器を活用した研修を通して、全職員の学習指導への意識を高める。 - 交換授業をしたり、授業参観をしたりすることで、教職員の授業力向上を図る。 - 子どもたちにとって個別最適な学びになるよう、教職員の意識を高める。	A 1 4	R 5	R 6	児童	97.4%	97.8%	教職員	100.0%	95.7%	保護者	78.3%	81.0%	地域住民		
A 1 4	R 5	R 6																
児童	97.4%	97.8%																
教職員	100.0%	95.7%																
保護者	78.3%	81.0%																
地域住民																		
			B															
4- (2) チーム力の 向上	A 15 学校に関わる職員全 員がチームとなり、協 力して業務に取り組ん でいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に 関わる教職員全員がチ ームとなり、協力して 業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校図書館司書業務 嘱託員、学校栄養士、 かがやきルーム指導員 、ALT、スクールカウ ンセラー等と、打ち合 わせや情報交換の時間 を確保する。 ② 学校に関わる教職員 同士、日常的な情報共 有に努め、コミュニケー ションを図っていく。 ③ 困難を感じる業務に ついて気軽に相談し、 助け合える雰囲気を大 切にし合う。	【達成状況】A15 (○) <table><tr><td>A 1 5</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>91.3%</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> - 教職員の肯定的回答が91.3%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ①～③を継続していく。	A 1 5	R 5	R 6	児童			教職員	100.0%	91.3%	保護者			地域住民		
A 1 5	R 5	R 6																
児童																		
教職員	100.0%	91.3%																
保護者																		
地域住民																		
			B															

4-（3） 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 業務の効率化が図れる取組を積極的に取り入れ、時間内に業務が遂行されるよう、計画的・組織的に取り組めるようにしていく。 ② 教職員の専門性を生かすとともに、校務分掌の主任のみが活動するのではなく、組織的な取組となるよう、教職員の連携を強化していく。 ③ 毎週「金曜日課」を設定するとともに、「ノー残業デー」を月に2回以上設定し、勤務終了時刻での退勤を徹底するなど、教職員が時間を意識できるようにする。 ④ 「学習情報システム」「ミライム掲示板」等を活用して業務の効率化を図る。 ⑤ 職員会議等の協議事項を精査して時間の短縮を図ったり、学校行事等の見直しを行ったりする。	A 【達成状況】A16（×） <table><tr><td>A16</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>児童</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>82.6%</td><td>69.6%</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答が 69.6%で指標を達成していない。 【次年度の方針】 ・①～⑤を継続していく。 ・「ノー残業デー」を掲示したり実施日を呼びかけたりすることで、見通しを持って業務を進め、定時退勤を意識できるようにする。 ・学校業務機動班への業務依頼を計画的に行うとともに内容の見直しを行い、学校業務の効率化を図る。	A16	R5	R6	児童			教職員	82.6%	69.6%	保護者			地域住民		
A16	R5	R6																
児童																		
教職員	82.6%	69.6%																
保護者																		
地域住民																		
5-（1） 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園研修会や各部会等を定期的に実施し、連携を図る。 ② 小中一貫・地域学校園の学校での取組の様子を、懇談会や学校便り、HPなどで地域や保護者に積極的に発信する。 ③ 給食における地域学校園統一の献立やおにぎりの日を実施する。 ④ 確かな学力の向上に向けて乗入授業を実施したり、家庭学習の進め方を統一したりする。 ⑤ 他校のいじめゼロに向けたポスターや標語作品の掲示など、いじめは許されない行為であることを地域学校園全体で指導する。 ⑥ 地域学校園図書だよりを発行し、児童の本についての関心を高める。	B 【達成状況】A17（○） <table><tr><td>A17</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.9%</td><td>93.2%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>87.0%</td><td>87.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>86.9%</td><td>87.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.7%</td><td>93.8%</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答が 87.5%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・①～⑥を継続していく。 ・引き続き、ホームページへの掲載や地域学校園に関する便り等を通して、様々な活動が行われていることが伝わるように努めていく。	A17	R5	R6	児童	91.9%	93.2%	教職員	87.0%	87.0%	保護者	86.9%	87.5%	地域住民	94.7%	93.8%
A17	R5	R6																
児童	91.9%	93.2%																
教職員	87.0%	87.0%																
保護者	86.9%	87.5%																
地域住民	94.7%	93.8%																
5-（2） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-（3） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 交流行事の活動のねらいを十分検討し、心の交流につながる活動になるよう工夫を加えながら継続していくとともに、学びを地域に発信する機会を設けるなど、双方向性の交流を目指していく。 ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携して、図書館の環境整備、「ぶどうの会」、安全ボランティア、放課後子ども教室等の充実を図る。 ③ 外部団体と連携した授業の様子は、学校便り、HP等で積極的に分かり易く家庭・地域へ情報を発信していく。 ④ 生活科、総合的な学習の時間の他にも奉仕作業や食農体験、地域の施設を活用した行事等、 <u>地域素材や人材・施設を活用した学習を継続・実施していく。</u> ・読み聞かせ（ぶどうの会） ・農業体験（田植え、稲刈り）（グラウンドワーク西鬼怒） ・町探検ボランティア ・ミシンボランティア ・校内水泳記録会（ドリームプールかわち）等	A 【達成状況】A18（×） <table><tr><td>A18</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>児童</td><td>94.8%</td><td>95.3%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.2%</td><td>86.8%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>94.7%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が 95.3%、保護者の肯定的回答は 86.8%、地域住民の肯定的回答は 94.7%で、児童と地域住民の指標は達成しているが、保護者は達成していない。 【次年度の方針】 ・①～④を継続していく。 ・地域の教育力を生かした学習は、子供の学びの深化や生きる力を育むために有効な手段であるため、今年度の取組を継続し、実施方法を工夫しながら、家庭・地域・企業等との連携を次年度も深めていく。 ・学校での活動を、児童から保護者に伝える取組を推進していく。	A18	R5	R6	児童	94.8%	95.3%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	90.2%	86.8%	地域住民	100.0%	94.7%
A18	R5	R6																
児童	94.8%	95.3%																
教職員	100.0%	100.0%																
保護者	90.2%	86.8%																
地域住民	100.0%	94.7%																

6-（1） 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 日常的な点検・定期的な安全点検を実施し、教職員が組織的に施設・設備についての維持管理を行うとともに、改善が必要な箇所については、迅速に対応する。 ② 機動班、学校業務嘱託員と十分連携を図りながら、施設修繕を行い安全の確保に努める。 ③ 熱中症予防対策、インフルエンザ予防対策など、時期に応じた保健指導管理を徹底する。	B	【達成状況】A19（○） <table><tr><td>A19</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>児童</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.4%</td><td>91.7%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答が91.7%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・①～③を継続していく。 ・施設の老朽化を踏まえ市教委と連携し、危険個所の確認、修繕を実施していく。 ・今後も、危機管理マニュアル、避難訓練等の確認、見直し、改善を続けていく。	A19	R5	R6	児童			教職員	100.0%	100.0%	保護者	94.4%	91.7%	地域住民	100.0%	100.0%
A19	R5	R6																	
児童																			
教職員	100.0%	100.0%																	
保護者	94.4%	91.7%																	
地域住民	100.0%	100.0%																	
6-（2） 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 一人一台端末を多様な場面で積極的に活用した授業を展開し、様々な機能（調べる・絵を描く・カメラ撮影等）に慣れ親しむ機会を設定する。 ② 効果的なICT機器の活用法を考える校内研修等を実施する。 ③ ホームページを活用して、児童が活動する姿を積極的に発信する。	B	【達成状況】A20（○） <table><tr><td>A20</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>児童</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答が100.0%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・①～③を継続していく。 ・一人一台端末の効果的な活用場面について、教職員間の情報共有ができるようにしていく。	A20	R5	R6	児童			教職員	100.0%	100.0%	保護者			地域住民		
A20	R5	R6																	
児童																			
教職員	100.0%	100.0%																	
保護者																			
地域住民																			
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 古里地域学校園や児童代表委員を中心とした朝のあいさつ運動を実施し、意識化・実践化を図る。 ② 各学年・学級で、成長段階に応じたあいさつの仕方を指導し、あいさつの習慣化を図る。 ③ 教職員が様々な場面で率先してあいさつする姿を見せることで、子どもへの意識化を図る。 ④ 本校のあいさつ運動を学校便りや懇談会等で保護者や地域の方々に周知するとともに、家庭や地域でも児童のあいさつ習慣が身に付くよう協力を促す。	B	【達成状況】B1（○） <table><tr><td>B1</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>児童</td><td>94.3%</td><td>93.1%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>91.3%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.7%</td><td>86.2%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が93.1%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・①～④を継続していく。 ・学校外でも積極的にあいさつできるよう保護者や地域の方と連携していく。 ・次年度も委員会を中心とした「あいさつ運動」を継続し、学校全体のあいさつを活性化していく。	B1	R5	R6	児童	94.3%	93.1%	教職員	100.0%	91.3%	保護者	84.7%	86.2%	地域住民	100.0%	100.0%
B1	R5	R6																	
児童	94.3%	93.1%																	
教職員	100.0%	91.3%																	
保護者	84.7%	86.2%																	
地域住民	100.0%	100.0%																	

	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 本校の生活目標を明確化した「すてきな虹色白沢っ子」を活用し、スモールステップで、児童指導主任や代表委員児童が放送等で呼びかけたり、良かった点を朝会等で称賛したりして、身に付けられるようにする。 ② 各種便りを通して、児童の変容などを保護者や地域に周知し、児童の意識を高めたりして、家庭や地域と連携を図りながら指導していく。 ③ 生活のきまりや学習のきまり等の掲示物を作成し、児童の意識化を図るとともに、秩序があり安全な学校生活が送れるよう教職員が共通理解のもと一体となって児童の育成に当たり、指導と振り返りを繰り返し行っていく。	【達成状況】B2 (○) <table><tr><td>B 2</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.3%</td><td>95.3%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>87.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.9%</td><td>93.0%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が 95.3%で指標を達成している。 【次年度の方針】 ・①～③を継続していく。 ・児童が学校生活のルールを共通理解して実践できるよう、教職員が同歩調で指導を行っていく。	B 2	R 5	R 6	児童	91.3%	95.3%	教職員	100.0%	87.0%	保護者	91.9%	93.0%	地域住民	100.0%	100.0%
B 2	R 5	R 6																
児童	91.3%	95.3%																
教職員	100.0%	87.0%																
保護者	91.9%	93.0%																
地域住民	100.0%	100.0%																
	B 3 児童は、学校行事や縦割り班活動等を通して、コミュニケーション能力を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、学校行事や縦割り班のゲームや清掃活動などの時に、リーダーシップを発揮し、積極的に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① 学年・発達段階に応じた交流活動のねらいと実施内容を全職員で共有し、全職員の共通理解のもと系統的に交流が図れるよう工夫していく。 ② たて割り班による共遊や各委員会活動等、班対抗のゲームや活動を取り入れて、継続的に高学年がリーダーとなる場づくりを推奨する。 ③ 積極的な情報の発信・提供に努める。	【達成状況】B3 (○) <table><tr><td>B 3</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.6%</td><td>90.5%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.7%</td><td>94.6%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が 90.5%、教職員の肯定的回答が 100.0%で、指標を達成している。 【次年度の方針】 ・①～③に継続していく。 ・高学年がリーダーシップを発揮することができるよう、心構えや学年に応じた役割などを指導していく。 ・今後も、学年だより等で保護者に伝える機会をつくっていく。	B 3	R 5	R 6	児童	92.6%	90.5%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	92.7%	94.6%	地域住民	100.0%	100.0%
B 3	R 5	R 6																
児童	92.6%	90.5%																
教職員	100.0%	100.0%																
保護者	92.7%	94.6%																
地域住民	100.0%	100.0%																
	B 4 児童は、郷土への愛情と誇りを持っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、白沢の良いところや自慢できることを知っている。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 地域の教育的資源（人材・施設・組織）を活用した体験的な教育活動を推進するとともに、ホームページや学校だより等で活動の様子を発信していく。 ・【総合的な学習の時間】米づくり体験・自然体験・白沢で働く人にズームイン【生活】町探検・河内総合運動公園での秋探し【社会】スーパーマーケットのひみつ【家庭】食農体験（米）【体育】ドリームプールかわちでの水泳記録会 等 ② 体験的な学習等の活動時において、事前、事後の活動の振り返りを行い、児童が地域のよさに気付くよう指導する。 ③ P T Aや地域協議会との連携を十分に図り、学校・家庭・地域が協同して教育環境の整備に努める。 ④ 教師自身が宇都宮学に関するテキストや河内地区ガイドマップ「かわち」等を活用し、地域の歴史、文化、自然、農業、工業、伝統行事等について理解を深める。	【達成状況】B4 (×) <table><tr><td>B 4</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児童</td><td>86.9%</td><td>88.4%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>87.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.4%</td><td>82.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.7%</td><td>100.0%</td></tr></table> ・地域住民の肯定的回答が 100.0%、児童の肯定的回答が 88.4%、保護者の肯定的回答が 82.1%で、全て指標を達成していない。 【次年度の方針】 ・①～④を継続していく。 ・道徳の郷土愛の授業を一層充実させる。 ・授業で白沢のよさを実感できるような内容を取り上げ、児童自身が郷土について考える機会を設ける。 ・創立記念日などに集会を行う。 ・ホームページや学校だより等で活動の様子を発信していく。 ・学校での活動を、児童から保護者に伝える取組を推進していく。	B 4	R 5	R 6	児童	86.9%	88.4%	教職員	100.0%	87.0%	保護者	88.4%	82.1%	地域住民	94.7%	100.0%
B 4	R 5	R 6																
児童	86.9%	88.4%																
教職員	100.0%	87.0%																
保護者	88.4%	82.1%																
地域住民	94.7%	100.0%																

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、教育目標の具現化に向けて、今年度も重点目標、具体的な取組を設定し特色ある教育活動に取り組んできた。

今年度は児童が回答する１９項目の内、１６項目で昨年度の肯定的回答の割合を上回った。昨年度を下回った３項目についても達成状況は９０％を超えており、全ての項目が市の肯定的回答の平均を上回っていることから、今年度に学校で行われた様々な取組が効果的であったことが推察される。

しかしながら、保護者が回答する１７項目中、昨年度の肯定的回答の割合を上回ったのは７項目で、前年から５％以上下回った項目が６項目あるなど、児童の肯定的回答の達成状況とは大きく異なる結果となった。学校の取組に関する保護者の理解を高めるために、各活動の目的、取組内容等を周知する手立てが必要であると考えている。

７ 学校関係者評価

- ・ 児童においては、ほとんどの項目で昨年度の肯定的回答の割合を上回っていることから、学校の取組の成果が表れていると考えられる。
- ・ 地域の自然や施設、人材を活用した教育活動が、全ての学年で行われていることが分かった。
- ・ 活動やアンケート等を通して、学校や地域の活動に協力したいと考えている保護者が想定より多いことが分かったので、協力できる方法を検討していきたい。
- ・ 学区内の交通安全対策について、学校と地域が連携して関係機関に依頼した結果、対策が強化された。今後も連携して安全対策を推進していきたい。
- ・ 保護者の肯定的回答の割合低下の理由として、学校の取組が保護者に伝わっていないのではないか。
- ・ 各種便りの配信やホームページでの紹介に力を入れているが、保護者が見ていないのではないか。保護者への伝え方についても再度検討していく必要がある。
- ・ 「学校に泊まろう」や「クリスマスフェスティバル」など、子どもたちや地域の方々が集えるイベント等を通して、郷土への愛情を高めていけるのではないかな。
- ・ 子どもたちが感じる地域の良さと、学校や地域が考えている良さに乖離があるのではないかな。

８ まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 児童の回答では、全ての項目においてが市の肯定的回答の平均を上回っていることから、次年度も今年度の取組を継続しながら、更なる向上を目指していく。
- ・ 以前より異学年の児童同士が仲よく活動できる本校のよさを生かして、縦割り班や兄弟学年・異学年交流活動を次年度も継続し、児童の主体性やコミュニケーション能力等を伸ばしていく。
- ・ 教育的効果が高い縦割り班での活動は、次年度も継続し、取組の充実を図る。
- ・ 本校の特色である地域の豊かな資源を活用した教育活動を推進していけるよう、ＰＴＡや地域協議会とも協力して保護者や地域の協力体制を構築していく。
- ・ 学校の取組への理解が高まらない項目があることや、児童の肯定的回答の割合が高いにもかかわらず、保護者の肯定的回答の割合が低い項目があることから、各種たよりやホームページで発信することに加えて、学校で学習したことを家族と話し合う課題や、児童会主催の集会等を保護者に公開するなど、保護者が学校の活動に触れ、理解が高まるような機会を設けていく。